

尾瀬沼トレッキング…女性委員会主催

日 時: 6月4日(金)～6月7日(月) 参加者数8名

参加者: L: 尾内 SL: 待場 大谷・金島・狩集・河合・澤田(律)・砂川(美)

行動記録:

6/4～6/5	着	発	6/6～6/7	着	発
山電高砂駅		20:25	温泉小屋		7:07
宝殿駅	20:35	20:40	沼尻	9:45	10:10
阪急西宮北口	21:45	21:50	尾瀬沼 VC	11:00	11:45
沼田 IC	4:40	5:05	三平下	12:30	12:35
鳩待峠	6:15	7:10	一ノ瀬休憩所	13:30	13:45
山の鼻	8:15	8:35	大清水	14:45	15:00
竜宮十字路	10:25	10:40	吹割の滝	15:40	16:15
見晴	11:10	12:07	花咲きの湯	16:30	17:30
温泉小屋	12:40	13:05	吹田 P	1:45	3:15
三条ノ滝	14:10	14:15	阪急西宮北口	3:48	3:50
温泉小屋	15:15		宝殿駅	4:45	

遙かな尾瀬 遠い空 ♪ ♪ ♪

寒い！と目が覚めた。バスの窓を打つ激しい雨音、ここはどのあたり？窓越しに見える畑の土の色がずいぶん黒い。ずっと以前、草津温泉を旅行した時と同じ景色やな…夢心地でバスに揺られながらも、憧れ続けてきた尾瀬が、もうそこにある嬉しさでわくわく。

私が、ぜひ一度行って見たい地は尾瀬と決めていた。昨夜8時過ぎ高砂を出発した私達8名と、今回初めて合同山行をする西宮山岳会の女性6名は、雨の夜明け6時ころ群馬県 鳩待峠に着いた。全員雨合羽を着けながら「やっぱり雨なのね。」待ち望んだ尾瀬の初日が、雨とは残念だけど、鳩待峠パーキングには雨も何のその、尾瀬に入る沢山の人達でごった返し。ボランティアの人達がいて、次々に来るハイカーに尾瀬に入るための注意や、アドバイスを説明しており、入場口は大変な混雑だった。

この峠の標高は1600m、尾瀬の標高は1400mだから、一気に200mを下ることになる。私達は、まず山の鼻に向かって歩く。「葉っぱ1枚、石ころ1個とて、この尾瀬から持ち出してはならない。」と、ボランティアの方が力説していたな…と思いながら、うっそうした木々の間を通り、亀の

金島



ような岩を抜けると、ぱっと視界が明るく開けてきた。

足元の木道の上に小さな水芭蕉が咲いているのを発見。1つ、また一つと、白い真綿色の花弁が本当に可愛い。TVで何回も見ているものの、実際に見る花への感動は、どう表現したらよいか…雨に濡れて咲く水芭蕉の群生に、感嘆の声があちこちから聞こえる。山の鼻を過ぎると、次は尾瀬ヶ原 見晴に向かって歩く。ここから前方遠くには燧岳(ひうちだけ)、後ろを振り向けば至仏山が望める。

いつの間にか雨がやみ薄日がさしてきた。都会の雑音は何一つ無く、木道を歩く人達の明るい声、楽しげな子ども達の声、この広い沼の何処でさえずるのか鳥の声、静かに流れる水音など、心地よくしみこむ感じがする。

三方から水が流れ注ぐ湿地の水溜りがあるが、あふれることもなく泡と渦に変わり、どこかに吸い込まれていく様子。ここは尾瀬、それは伏流水となってどんどん地下に潜っていくのだと分かる。所々にある木道わきの休憩所で、語らう人達に混じり、私達もしばらく休憩をとる。なんと広い眺めだろう。次第に青くなっていく空の色が、水芭蕉の咲く水辺の根元を青く染め、

♪ 遙かな尾瀬…遠い空…♪ 子どものころに歌った「夏の思い出」は、まったくその通りである。

10時過ぎ見晴に到着。

私達は、弥四郎小屋前のテント広場で昼食を摂ることにする。「このコーヒーが実にうまい！」とガイドお薦めのコーヒーは、この弥四郎小屋だったことを思い出し、皆で食後のコーヒーと洒落る。

水芭蕉の美しさは本当にたえようがないけれど、この地に何気なく立つ白樺の姿も素敵に美しい。座った目の高さから燧岳がきれいに見える。守られている尾瀬国立公園の偉大さを感じる。昼食を終わり私達は左手に道を取り 1 時間ほどで本日の宿、尾瀬ヶ原温泉小屋に12時過ぎ到着した。

途中、木道ですれ違った若い歩荷(ぼっか)さんは背丈の3倍くらいに積み上げた荷物を背負い、ゴミを集落外に荷出するのを見た。

尾瀬ではゴミを歩荷さんの担ぎに頼っているのを知ると、自分達のゴミを持ち帰るのは当前だと思う。

宿にひとまず荷物を置き、サブザックで三条の滝に向かう。

すぐ近くと思っていたが結構滝までの時間はかかったように思う。滝の近くの立札には「福島県管理」と書いてあり、ここがもう福島県かと感慨も深い。雪解けの水量もあり、三条の滝の豪快さは、滝つぼから相当離れていてもマイナスイオンの霧が心地よい。

ちょっと歩きづらい山道ではあったけど、三条の滝は、この地に来てこそ見ることができた。午後4時前には温泉小屋に戻る。

6月の日没は遅く、まだお日様のあるうちに入浴を済ませ温かい夕食をいただく。「お疲れ様でした。味噌汁のお代りが十分ございます。」と若い従業員さんの声に私達は満ち足りる。窓越しに眺められた夕焼けに染まる尾瀬ヶ原の美

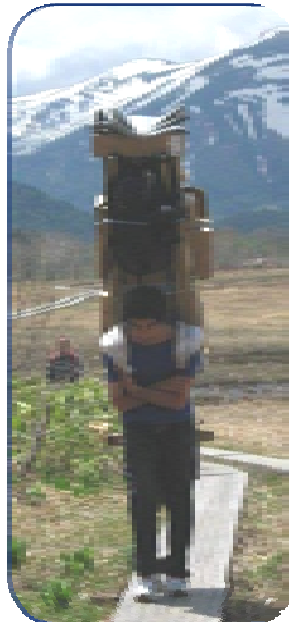
しい情景は今も脳裏に焼きついて離れない。

夕食後、西宮山岳会の方との懇談会も自然を仲立ちに心も開き楽しいひとときになった。翌朝は尾瀬沼を経て岩清水、大清水への行程である。6月というに霜が降りる寒さに驚きつつ7時に宿を出発した。

いったん見晴まで戻り、ここから東に道を取り尾瀬沼に向かう。途中、燧岳登山口があり、ずっと目で追ってきた山はここから入ることを知る。

昨日200m下がった分だけ、今日は登る。尾瀬は木道つづきであるが、沼をわたる風が涼しく汗ばむ頬に気持ちがいい。

しばらく林の中を歩くと、尾瀬沼が見えかくれて10時頃、沼尻平に着く。ここもハイカーでいっぱいだ。沼の周りには電信柱 1 本も無い。人工的な手を加えず自然のままの景観を大切に守っていることに感動する。かつて平野長蔵という方が自分の命を賭けて、この尾瀬の自然を守った話を聞いた。高度成長期の真っ只中、この地に計画された幹線道路の建設を、阻止し尾瀬を守ったという。沼の周りを楽しみながら、尾瀬が



いつまでも変わらないことを祈る。

今度は南に道を取り、いよいよ下界に下ることになる。長蔵小屋の前で、昼食後しばし風に吹かれながら日光浴を楽しむ。

湧き水のおいしいのが出ており、私もポットを満タンに水を入れた。沼を過ぎると岩清水、山の中に入ってきた。今まで涼しいハイキングであったが、ここに来て結構暑い。ゴロゴロ道を抜け木を並べた梯子を歩き、下り一辺倒になる。足に力が入るが、もうすぐゴールに近いと頑張る。

一之瀬休憩所に到着。店ではキュウリを冷水につけて売っている。名物らしく、みんな競って買い塩をふって食べる。おいしい！ 昨日から約30kmを歩き続けた足が棒のように疲れ、足を投げ出して休む。あと1時間で私達を待つ

ているバスに帰ることが出来る安心感と満足で、この休憩は最高に楽しい時間になった。

尾瀬から下界につづく林道を抜け、15時ころ予定より早く、懐かしい私達のバスが待つ大清水パーキングに無事到着した。私のザックの後ろには、2日分のゴミを納めたポリ袋をぶら下げたの終着点である。

尾瀬には不思議な何かが住んでいる。絶対に壊してはならない唯一の場所かも知れない。

風邪気味で咳き込む私を、始終気づかせてくださった仲間の皆さんに感謝いたします。

帰りのバスの中、西宮山岳会からのワインで乾杯、打ち上げ気分も最高、忘れられない尾瀬山行になりました。

県連環境月間行事 武庫川清掃&集会

日 時: 6月6日(日) 参加者数6名

参加者: L: 砂川 北川・須増・高橋・山本・渡邊(俊)

行動記録: JR 西宮名塩9:00 ~ ダム予定地 ~ 廃線跡 ~ 集会桜の園11:00 - 12:30

武庫川清掃ハイク

武庫川清掃ハイクに参加するのは、昨年に引き続き2度目でした。晴天の中、のんびりと、旧福知山線の廃線跡を歩きました。

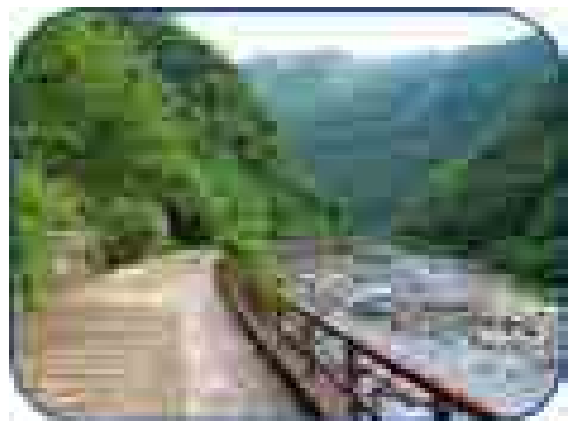
ここは3年前に友人と訪れたことがあり、登山に興味を持つきっかけとなった場所でもあります。当時は、宝塚のすぐ近くに、こんないい場所があることに驚きました。

大きな岩や、その隙間に咲く、かわいいツツジなどを見ていると、心がほっこり和みました。武庫川渓谷のダム建設は、向こう20年は見合わせる事が決まっているそうです。

ダム反対のために行動されてきた方達の話には説得力があり、自分も自然保護について考えてみたいと思いました。

高橋

その後、武田尾温泉で入浴して帰途に着きました。初夏の山の空気を吸って、一緒に参加された皆さんの楽しい話も聞くことができ、「参加してよかったな～」と思いました。



旧福知山線廃線跡と武庫川渓谷

会員だより

入会して一年にあたって

渡邊

定年退職してから一年半になりますが、山遊会の自主トレ、山行に参加したり、個人山行で近場の山に登ったりするのを軸の一つにし日々を送っています。今年の“初めての山歩き教室”のサポートに参加すると、昨年度に生徒として参加したのが、ほんの先日のように思い出されて、一年がもう過ぎてしまったのかと時の経過の早さに驚かされます。これからの時間をより一層大事に使って行きたいという思いを強くしています。

我が家のシーズー犬(名前はユータ)

和田

我が家のシーズー犬ユータが我が家に子犬で来て 5 年になる。シーズーは小型の長毛犬であるが 我が家では毛が少し伸びたら散髪して短毛にしている。

当初 全身の毛が長く 耳も長く垂れ下がっていた。が、しばらくすると 長毛、特に耳がフェルトみたいになってむさ苦しく見えた。

散髪して少しさっぱりさせてやろうと 鋏で切りだした。どんどん切ってくると本来の耳が現れた。驚いた。本来の耳は ずっとずっと小さく、タレ耳でかわいいものである。

以来、少し伸びると、全身を散髪してやり、普通の短毛犬の外観で通している。

奥穂高遭難事故関連

遭難事故の捜索は懸命に続けられています。残り1名の手がかりはいまだ掴めていません。一日も早く遭難者が発見されることを願っています。

○東灘勤労者山岳会

会長 吉田氏から、遭難事故へのカンパの礼状が届きました。

